

教育学研究科・グローバル教育展開オフィス

吉岡 佑衣・臨床心理学コース・博士後期課程3年

国際学会：2024 Annual Dream Conference IASD

参加地・期間：Kerkrade, Netherlands・2024/6/8-11

発表題目：The Relationship between Over-Adaptive Tendencies
and Emotions in Dreams among College Students

成果の概要

私は「The Relationship between Over-Adaptive Tendencies and Emotions in Dreams among College Students」という題目で、ポスター発表を行いました。本研究は、感情抑制傾向との関連が指摘されている過剰適応傾向と、夢の中で体験する感情の強さとの関連を質問紙を用いて調査したものです。結果として、覚醒時は感情を抑制しているとされる過剰適応傾向が高いグループは、夢で最も強い感情を体験していました。これは覚醒時に抑制しているはずの感情が夢では逆に強く体験されるという点が本研究の興味深い点であり、Jungの補償機能との関連性や、臨床的応用の可能性について考察しました。

ポスター発表にはたくさんの参加者が来られ多くの質問を受けました。特に、過剰適応傾向の特徴や文化差についての質問が多かったです。過剰適応傾向は日本で特徴的な心性とされていますが、それがなぜ発生するのか、他に国で過剰適応傾向は見られるのかという質問が多かったです。また、今後の研究への示唆として、他文化圏での調査や、大学生のみならず他の年代を対象とした調査を勧められました。他にも、夢のリバウンド効果や感情調節機能との関連性といった、研究に関連する多くの示唆を得ました。

他の研究者との交流として、ポスター発表では研究者同士でポスターを見て、ディスカッションを行いました。明晰夢に関する発表や、パンデミックと夢の関連性についての研究、夢を用いたセラピーに関する研究や、AIを用いた日記ツールによる夢解釈など、多様な興味深い研究がありました。英語の聞き取りは時に難しかったですが、何とかコミュニケーションを取ることができました。数人とは連絡先の交換も行い、今後も研究や夢に関してやり取りをすることを約束しました。

会場の様子として 日本からの参加者は私だけでしたが、皆フレンドリーでとても居心地の良い会場でした。また、本学会は夢の研究者のみならず、夢に関するアーティストやセラピスト、シャーマンといった夢に興味を持つ多様な人が参加していました。そのため、発表内容も研究に関する口頭発表や基調講演のみならず、夢の臨床的利用に関するワークショップや、夢からインスパイアされたアートの展示など、幅広く夢について考え、体験することができる場所でした。このように異なるバックグラウンドを持った様々な人々が夢という共通項で集まっていることにはある種感銘を受けました。私は主に研究発表に参加しましたが、私の研究分野における最新の知見を得ることができました。国際学会の場で研究の仲間を見つけられたことで、よりモチベーションが高まったように思います。

支援を受けた感想として、まずこのような国際学会への参加・発表という貴重な機会を与えてくださったことに感謝します。私の専門である夢の研究は海外で盛んに行われており、日本の中だけでは分からないもの、得られないものがたくさんあることを痛感しました。また、私にとっては海外に行くこと自体が初めてでした。今回の支援が無ければ、私にとっては非常に高いハードルであった海外での国際学会参加にチャレンジすることはできなかったと思います。また、国際学会参加の一番のネックである金銭面に関してサポートを頂けることは大学院生にとってありがたいことです。

今後の研究活動へのつながりとして、日本で1人で研究を行っているだけでは得られないアイデアや、貴重な交流を得られました。特に、近接分野の研究者とのやり取りはとても刺激的であり、今回得た知識やアイデアをヒントに研究を行っていきたいと思います。研究者同士のつながりも活用し、いずれは共同研究などに繋げて行くことを目指します。また、今後は英会話の練習を重ね、口頭発表にもチャレンジしたいと思います。この度はご支援により、このような貴重な機会を与えて下さり誠にありがとうございました。